

東弁財務クイズ

監事 大井 暁 (44 期)



会員の皆様に財務について少しでも関心を持って頂ければと思い、東弁の財務クイズを作ってみました。全問正解の方はかなりの財務通です。

【問題】

問1 東京弁護士会の会費収入は、平成16年度決算では9億2399万円（1万円未満切り捨て。以下同じ）でしたが、平成21年度の決算額は、次の選択肢のうちどれでしょうか？

①9億9923万円 ②10億5355万円 ③11億0034万円

問2 東京弁護士会の事業活動支出のうち、給料手当と法定福利費の合計額は、平成16年度決算では5億3517万円でしたが、平成21年度の決算額は、次の選択肢のうちどれでしょうか？

①5億8769万円 ②6億2357万円 ③7億1664万円

問3 弁護士会館（多摩含む）の維持管理のため、平成21年度決算では、東京弁護士会の負担分として、どの程度の金額を支出したでしょうか？

①1億0400万円 ②1億5600万円 ③2億1100万円

【解答と解説】

問1 会員数は増加しているものの、修習終了後5年目までの減額措置の実施等により、会費収入の伸びは比較的緩やかなものに留っています。経常支出の増加（問2）に対応するには、会費以外の財源確保が急務のようです。正解は、②です。

問2 平成21年度一般会計の事業活動支出約15億円のうち、約56%を管理費が占めています。弁護士会の事業活動が拡大するのに合わせて、人件費も増加しています。正解は、③です（但し、嘱託弁護士の給与も含まれます）。

問3 霞ヶ関の会館の維持管理費は、日弁連と東京三会が負担していますが、東京弁護士会は、管理委託費約1億円、地代約3700万円等を負担しています。そのほか多摩支部拠出金（家賃分）等を含め、当会だけで年間2億1100万円を支出しています。正解は、③です。

LIBRAの読者の皆様は、何問正解しましたか？

蛇蠍のように…

監事 水上 博喜 (46 期)



監事は、いったいいつも何をやっているのかということについて、皆様余りご承知ではないかと思えます。

抽象的には予算の執行が適正になされているか、出費が適切妥当か、決算が適法かつ適正に行われたかを見張るのが職責となるのですが、具体的に云うと約週2回開かれる理事者会に出席して、出費を伴う議案に対して意見を述べる、毎月山のように出てくる出金、入金、振替伝票とにらめっこして、間違いや疑問のあるところをチェックしていくことが主たる業務です。それ以外にも常議員会、総会、財務委員会に出席して必要であれば意見を述べるということもあります。

要するに人のやったことを批判するというのが監事の役目といえます。だから結構嫌われます。本年度の二人の監事の今年の流行語は「蛇蠍（ダカツ）のように…」です。余り

耳慣れない言葉なので一度辞書でも引いてみてください。

監事の職務は常勤ではないので、それ以外の時間は皆様と同じように本業たる弁護士業務を行ったり、遊びに行く時間はあるのですが、伝票のチェックなどに結構時間がとられることと、結構、式典への出席を要請されるなど時間がとられることも多いのです。酒好きの私でも少々辟易とすることもあります。

上席の大井暁監事も酒好きなので監事二人で飲みに行くこともあります。二人の性格が正反対なのでかえって楽しくやっております。

最後に4月号で紹介した私の趣味ですが、残念ながら今年は激減してしまいました。しかし、そろそろ、ダイビングの虫がうずき始めているので、いつ職責を放棄してグアムに向かうか判りません。